



全ての世代の方々が幸せと豊かさを享受できる、
「ひたちらしさ」あふれるまちづくり

日立市長
小川 春樹 氏

筑波銀行日立支店長
高野 尚仁

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。
今回は茨城県日立市です。筑波銀行日立支店長 高野 尚仁が日立市長 小川 春樹氏にお話を伺いました。

ふるさと日立を未来につなぐ

2015年に日立市長に就任して以来、「全ては市民の皆様のために」「全ては日立市のために」という信念のもと、市政運営に全力を傾けてきました。

特に、行政の根幹である「安全・安心のまちづくり」、喫緊かつ最重要の課題である「地方創生・人口減少対策」として若者や女性の更なる活躍応援、切れ目のない子育て支援に注力してきました。さらに現在は、次の時代につながる社会基盤や人づくりのための「都市力の向上」「持続可能なまちづくり」を加えた4つの政策を柱に、魅力あふれるまちづくりを進めているところです。

2022年度からは今後10年間の本市のまちづくりの羅針盤となる新たな総合計画をスタートさせました。私自身も現在3期目がスタートし、県北地域の中心都市としての役割を果たし、ふるさと日立を未来につなぐ重要な4年間と位置付けています。

一人でも多くの方が日立市で働き、一人でも多くの方が日立市に住み、一人でも多くの方が日立市に来て楽しむことができる、そんな多くの人々

が期待感や躍動を胸に日立市に集い、全ての世代の方々が幸せと豊かさを享受できる、元気あふれる日立市を創り上げていきます。

ますます改善する交通体系

重要政策の一つ「都市力の向上」のために、人と環境に優しい公共交通体系および道路交通体系の整備に取り組んでいます。

新たなバス交通として整備した「ひたちBRT」は現在、道の駅日立おさかなセンターからJR大甕駅を経由してJR常陸多賀駅まで運行しています。一般の路線バスと異なり運行の定時性、速達性が確保されるなど利便性が高いことから、コロナの





国道6号日立バイパス(1期)

影響が残る中でも、年間45万人以上の方に利用していただいています。今後はJR常陸多賀駅からJR日立駅まで延伸する第Ⅲ期ルート of 整備を検討しています。また、「ひたちBRT」において国が自動運転「レベル4」の実証実験を進めていますが、BRT分野では唯一、国のプロジェクトとして実施している事業です。

幹線道路の整備では、積年の課題である交通渋滞解消のため、2008年3月に「国道6号日立バイパス」が田尻町から旭町まで、2013年3月には「山側道路」が全線開通し、渋滞の解消に一定の効果が見られます。現在は神田町から大みか町に至る国道6号を4車線化する「大和田拡幅事業」、国道6号日立バイパスを国分町まで南伸する「日立バイパス(Ⅱ期)」が国の直轄事業として進捗しています。

2023年5月には「都市計画道路鮎川停車場線」が開通し、国道6号諏訪五差路と国道245号がJR常磐線をアンダーパスして接続されたことにより交通の分散化が図られ、将来的に「日立バイパス(Ⅱ期)」が接続することで、新たな南北軸の道路交通ネットワークが形成されます。また、国道245号は久慈大橋の4線車化とともに、久慈町から水木町にかけて4線車化の事業が進められています。こうした取り組みにより市内の交通渋滞は解消に向かっていきます。

人が集う、未来展望のまちづくり

駅前のにぎわいづくりも「都市力の向上」のために重要です。2022年1月、日立駅前で30年の長きにわたり営業いただいたイトーヨーカドー日立店が幕を閉じました。まずは一刻も早く、市民の生活に必要な食品スーパーや生活雑貨などの核となるテナントの誘致に注力しました。

また、近隣にお住まいの方や日立駅を利用する通勤・通学者等も自然に立ち寄りたくなる施設となるよう、コンセプトを「よりみち」として誘致を進めました。

それにより、いばらきコープ様、良品計画様を始め、多くの魅力あるテナント様にご出店いただき、2023年4月に「ヒタチエ」としてリニューアルオープンしました。7月から9月にかけてもさまざまなテナント様がオープンし、その数は9月末時点で30を超えています。



日立駅前にリニューアルオープンした「ヒタチエ」

市内のJR常磐線駅舎については、2011年に日立駅、2018年に大甕駅の整備が完了し、現在は市内最後の駅舎整備となる「常陸多賀駅周辺地区整備事業」に重点的に取り組んでいます。

「ひたちBRT」の日立駅までの延伸整備を見据えながら、自由通路や駅舎、東口交通広場、南北アクセス道路の整備などを進め、「にぎわい・交流機能」や「交通結節機能」など、都市の拠点としての機能向上を図りたいと考えています。



常陸多賀駅周辺地区整備事業

企業も働く人も元気に

「持続可能なまちづくり」のために、産業振興・就業支援を積極的に行っています。日立市が伝統の「ものづくりのまち」で在り続けるためには、それを支える中小企業へのきめ細やかな支援が不可欠です。1998年に地域産業振興のために公益財団法人日立地区産業支援センターを設立し、ともに中小企業の経営基盤の確立に向けた充実した産業政策を実施しています。

新産業の創出やイノベーション、新製品開発や技術開発、販路開拓による産業競争力の強化を始め、企業を支える人材の確保、事業承継の支援、そして次代を担う人材育成への投資などの「人づくり」に対する支援のほか、デジタルトランスフォーメーション、グリーントランスフォーメーションに向けた支援など、多くの支援事業を展開しています。

なかでも、脱炭素に関しては2022年度、全国でもいち早く産学金官連携のコンソーシアム（共同事業体）を立ち上げ、地域ぐるみで中小企業の脱炭素経営を支援する体制を構築しました。2023年度は、省エネ設備等の導入に対する補助事業をスタートさせたほか、株式会社日立製作所様と連携して中小企業の脱炭素経営をサポートするシステムを構築し、10月から中小企業の利用を開始しました。

また、就業支援の取り組みとして、日立市と日立商工会議所、ハローワーク日立の3者が連携し、市内の大手企業を訪問して市内高校卒業予定者の定期採用に関する要望活動を行っています。

2023年度からは新たな取り組みとして2つの若年層向けの支援事業を開始しています。1つ目は、高等学校や専門学校等を卒業し、市内中小企業等に6か月間継続して正社員として雇用されている方に祝金を支給するものです。2つ目は、市内の中小企業等が30歳以下の市内在住者に住宅手当等を支給している場合、その経費の一部を補助するものです。

日立市の未来を担う人づくり

「持続可能なまちづくり」のために欠かせないのが、日立市の未来を担う人づくりです。本市では2022年度から「チャレンジを応援するまちひたち」を目指し、誰もが自分の可能性を信じてチャレンジできる、希望あふれるまちを実現するため、さまざまな取り組みを行っています。

「女性の就業支援」としては、出産や育児、介護で離職した女性などの就業を後押しするため、女性デジタル人材育成講座などの学びの機会の提供や、就業に有利な資格取得に対する経費の補助などを行っています。

また、「若者応援」を具現化するため、2021年度から「かがやく若者であふれるひたち」を目指し、若者団体への応援、日立市若者資格取得補助、日立市若者活躍応援補助などの取り組みを推進しています。

特に、「ひたち若者かがやき会議」を始めとする若者団体への応援では、若者世代が活躍できる環境づくりを通して、本市への愛着や自分の力で地域を作り上げる機運を高めるとともに、若者同士の仲間づくりや交流機会の創出にもつなげています。

さらに、結婚を希望する若者などを支援するため、2023年度から恋活応援推進員を配置して気

軽に相談できる環境を整えたほか、出会いの機会創出につながるイベント開催や参加費用の助成を行い、年度内には専用ポータルサイトを開設して情報発信を強化していきます。

日立市を新たなふるさとに

日立市への移住・定住を促進する取り組みも積極的に進めています。本市は東京圏から電車で90分の距離に位置し、豊かな自然と年間を通して温暖な気候に恵まれています。自然環境を利用した多様な趣味・趣向を持つ若者や、テレワークなどの新しい生活スタイルを求め、ワークライフバランスを実現したい方にとって、とても住みやすく高いポテンシャルを秘めたまちです。

2022年度の東京圏からの移住者への「移住支援金」の利用件数の実績をみると、本市は県内で取手市に次ぐ第2位の状況で、その数は年々増加傾向にあります。

更なる移住・定住の促進を図るため、若い世代に向けた住宅取得への支援などを行っています。2022年1月からは、本市への移住を希望、検討している市外在住の方を対象に、お試し住宅「海に見える家」を使用した「お試し移住」事業を実施しています。これまでに東京都や神奈川県などの首都圏を中心に34組の方にご利用いただき、2組の方が本市に移住されました。



筑波銀行への期待

筑波銀行には、資金面のみならず、経営課題の解決といった面でも、市内中小企業への支援を行っていただき、大変感謝しています。今後は喫緊の課題である中小企業の事業承継が円滑に行われ、日立市で事業を継続していただくためにも、市内中小企業の経営や事業の動向を把握されている筑波銀行のご協力は不可欠であると捉えていますので、引き続きのご支援をお願いいたします。

（取材日：2023年10月4日）



わがまちの子育て支援 - 日立市 -

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

「子育ては、日立市で」日立市の子育て支援、ホントにすごいんです！

日立市では、安心して子どもを生き育て、子どもが健やかに育つ環境づくりを目指してさまざまな子育て支援施策を実施しています。医療費や保育料などの経済的な負担はもちろん、子育て環境の整備や“ひたちらしさ”を活かした教育にも力を入れ、次世代を担う子どもたちの成長をまち全体で応援しています。日立市独自の「子育て支援6つの無料」をご紹介します。



①18歳までずっと！医療費が**無料**

[小児医療福祉費支給制度(マル福)]

医療機関等を受診した際の医療費の助成対象を、茨城県のマル福制度に加え、日立市独自に0歳～18歳(高校生相当)の年度末まで拡大しています。所得制限はありません。外来の自己負担金のほか、入院中の自己負担金と食事代も助成しています。



②子育てはひとりで頑張らないで！ヘルパー派遣料が**無料**

[産前・産後ママサポート事業]

妊娠中または出産後、日中頼れる親族などがいない方(妊娠中～お子さんが2歳になるまで)などを対象に、自宅に無料でヘルパーを派遣し、家事や育児をサポートします。

※産前・産後に支援が必要な方で、近くに頼れる親族等がいない方に限ります。



③家計にやさしい！第2子以降の保育料が**無料**

日立市では国の制度を拡充し、認可の保育園や認定こども園に通う0～2歳児についても、第2子以降の場合は保育料を無料にしています。(世帯の収入によっては、就学前のお子さんのみで数える場合があります。)



④み～んな同じスタートラインで！ランドセル・スクールカバンが**無料**

日立市では、1975年から新1年生へランドセルを贈呈しています。2020年度からは新中学生へもスクールカバンを贈呈！すべての子どもたちが同じスタートラインに立てるように願いを込めて。



⑤愛情たっぷりの学校給食が小・中学生み～んな**無料**

[学校給食費の完全無償化]

子育て家庭の経済的負担を軽減するため、2023年4月から市が提供しているすべての児童・生徒の給食費を無償化しました。給食は学校生活の中で子どもたちの大きな楽しみ。地場産物などを使った豊富なメニューで、子どもたちの健やかな成長を支えます。



⑥ここも！あそこも！楽しく遊んで学べる施設が**無料**

日立市には、かみね動物園や日立シビックセンター科学館・天球劇場、Hiタッチらんど・ハレニコ！など安心して遊べる施設がいっぱい！市内の小・中学生に配布している「ひたち大好きパスポート」を使えば、14のスポーツ・文化施設の入場料・使用料が無料となります。

*まだまだすごい！日立市の子育て支援について詳しくは…



日立市シティプロモーションサイト
「ひたち風」